

記念碑が設置されました

昨年11月に開催された『「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮』で行われた植樹を記念し、石碑の除幕式が1月29日(日)に行われました。

記念碑が建てられたのは、大方あかつき館の入り口前。サミットで植樹をした場所に設置されました。記念碑には、二階俊博幹事長によって書かれた題字と、サミットで採択された「黒潮宣言」が記されています。

当日は関係者31人が出席し、主催者を代表し県知事・尾崎正直氏が「高校生サミットで学んだ教訓を今後につなげていきたい」と挨拶をしました。また、来賓の福井照衆議院議員からは「サミットでは、国境を越え、命を絶対を守るという思いを共通化することができた。この先も継続したい」と祝辞が述べられました。

大方あかつき館ロビーには、サミット開催を記念し、各国の参加高校生らの名前を記したプレートなどが飾られています。



出席者が記念碑を囲んで記念撮影をしました



記念碑除幕の様子



館内ロビーには記念プレートが(写真左)

青空の下で枝打ち・間伐体験

平成元年から始まり、今年で28回目となる幡東森林組合主催の「林間学校」が2月15日(水)、虎杖山分収造林地で開校されました。

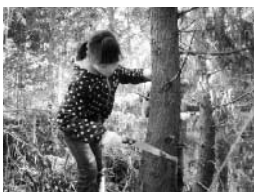
当日は、入野小学校・佐賀小学校の5年生44人が参加し、木の間伐や枝打ちを行いました。

「のこぎりを初めて使う」という声も多く、最初は慣れない様子の児童もいましたが、何回か体験していくうちに「思ったより簡単」「もっと切りたい」といった声が聞こえてきました。また、植樹を終えた後は、海を見渡す大自然の中で昼食をとり、閉校となりました。

例年は植樹の体験を行っていましたが、今回は今までと違った体験を企画。「朝には暗かった山が、枝打ちをすることで空が広くなり、帰りには明るくなっていく。そんなことに少しでも気付いてほしい」という主催者らの思いが子どもたちにも伝わったのでは。



高知水源林育成士会による事前説明



枝打ちをする児童

漂流物展開催中

砂浜に流れ着いた様々な物を展示する「漂流物展」よくきたね。が3月5日(日)まで、ビオスおおがた情報館(砂浜美術館事務局)で開催されています。

漂流物展は、何年も前からNPO 砂浜美術館のスタッフが中心となり、展示品となるものを集めてきました。今回は、モダマヤココヤシ、マンゴーなどの「種子」を中心に展示しています。今年の展示期間はもうすぐ終了します。気になる方は、お早めに足を運んでみてください。



展示品の中には大きなココヤシも